

八木山動物公園運営方針

平成29年12月改定
建設局

I 策定の趣旨

仙台市の動物園は、昭和11年に全国で11番目の動物園として、広瀬川の河川敷にある評定河原に創設した「仙台市動物園」がその始まりである。その後、戦災による閉鎖、廃止を経て、昭和32年に三居沢に復活したが、昭和40年には八木山地区に現在の「仙台市八木山動物公園」が誕生した。

その後は、平成11年にアフリカ平原放飼場、平成14年には猛獣舎の改築を行い、豊かな自然環境と動物を一体として観察できる環境生態展示を取り入れるなど、動物園の魅力を高めてきた。

また、平成22年にはビジターセンターを、平成25～27年には西門広場エントランスを整備し、平成27年の地下鉄東西線開業を機に、平成29年にはふれあい体験や環境学習などを行うふれあいの丘をオープンするなど、順次、施設整備を進めており、東北最大級の動物園として多くの来園者に親しまれている。

しかしながら、八木山動物公園は、開園から50年を超え多くの施設が老朽化し、利便性や安全性の点でも改善が必要となるなど、さまざまな課題を抱えている。

八木山動物公園が今後とも期待される役割や使命を果たし、多くの来園者が訪れる魅力ある動物園となるため、中長期的な観点から動物園の運営に関わる基本方針を策定し、計画的な取組みを進めていくものである。

II 現状と課題

1 入園者数

八木山動物公園の入園者数は、昭和50年代から60年代にかけて60万人程度で推移しており、これまでの最高入園者数は、昭和53年の63万5千人である。平成以降は50万人を割る年もあったが、地下鉄東西線が開業した平成27年度には6年ぶりに55万人を超え、平成28年度には約57万人となるなど、増加傾向にある。

全国の主要な動物園との比較では、人口当たり入園者数は他の地方大都市と同程度となっているが、冬場は入園者数の落ち込みが大きく、寒冷地の動物園としての課題を抱えている。

地下鉄東西線によるアドバンテージを生かしながら、施設や動物展示の充実、魅力的なイベントの企画、効果的な広報などにより、更なる入園者数の増加に取り組む必要がある。

2 施設

園内の施設等については、設置以来改修を行っていない類人猿舎や爬虫類館、一部改修が未実施のアフリカ園などを中心に、全体として施設の老朽化が著しく、開園当時から残る檻型施設と改修された環境生態展示施設が混在している。また、飼育動物の療養や繁殖のためのバックヤードが不足しており、電気設備や園内埋設の給・排水設備についても、老朽化が進み早急な対応が必要となっている。

また、園路の急な勾配やトイレの老朽化、作業車両と来園者の動線の混在など、来園者の利便性や安全性などの点で多くの課題がある。

3 動物展示、イベント

八木山動物公園は、スマトラトラ、アフリカゾウ、キリン、ホッキョクグマなど人気の高い希少大型動物がそろっており、スマトラトラの繁殖やホッキョクグマの繁殖研究にも取り組んでいる。

近年、ワシントン条約による動物取引の制限や、生息地での野生個体数の減少、新興国の動物園を中心とした動物需要の高まりにより、新規動物の導入が難しくなっている。八木山動物公園においては動物の高齢化による展示動物数の減少が懸念されており、2年ごとに展示繁殖計画を更新しながら新規動物の導入や種の選定を戦略的に進めている。ブリーディングローン（繁殖のための動物の貸与）などにより動物を導入するためには、飼育・繁殖の実績が問われるため、今後とも高いレベルで技術を維持・向上させていく必要がある。

八木山動物公園では、正月開園やGWイベント、夏の夜間開園など季節ごとのイベントや、動物の行動、能力に焦点を当てたイベント、環境教育的イベントなど多様なイベントを年間を通して実施している。今後は新たに整備したふれあい館を有効に活用しながら、より魅力的なイベントへとリニューアルしていく必要がある。

4 種の保存、環境教育、動物福祉

八木山動物公園では、多くの大学や研究機関、他の動物園などと連携し、希少種の繁殖に力を注ぐとともに、「極東地域の野生シジュウカラガン羽数回復プロジェクト」やJICA事業による「動物園ESD（持続可能な発展のための教育）によるマダガスカル生物多様性保全事業」など野生動物の生息域内保全に貢献してきた。

日本動物園水族館協会と連携し、園内動物病院に配偶子バンクを設置しており、今後、希少種の配偶子保存と活用に向けた研究にも取り組んでいくこととしている。

今後とも、飼育・繁殖技術の調査研究や野生動物の保全事業などに継続的に取り組むとともに、日本動物園水族館協会や国内外の動物園、関係機関とも連携し、より広い視点で動物交換やブリーディングローンを実現していくなど、種の保存に貢献しながら、希少種を中心とした魅力ある展示を行っていく必要がある。

また、八木山動物公園では、園内で得られる卵や糞などの派生物を活用し、動物の特徴や生態に関する出前授業などを県内の小学校向けに行っており、遠足や修学旅行などの機会においても動物の命や生息環境について考える学習の場として、ふれあい館などを活用しながら一層の取り組みを進めていく必要がある。

動物福祉については、近年、その重要性が高まっており、八木山動物公園でも、さまざまな環境エンリッチメントとして飼育環境の工夫を取り入れ、来園者に生き生きとした動物の姿を見てもらえるよう、動物の健康や生態に配慮した展示方法へと改善を図ってきたところであり、今後とも改善が求められる。

5 広報、情報発信

八木山動物公園の紹介やイベントの告知などについては、市政だよりやホームページのほか、テレビ、コミュニティFM放送などによる広報を行っている。

また、ツイッターやユーチューブにより、動物の展示状況などについて、リアルタイムな情報提供を行っており、今後とも、マスコミ等を効果的に活用しながら広報、情報発信を行っていく必要がある。

6 連携、協働

八木山動物公園では、イベントの実施やPRなどについて、さまざまな主体と連携し、協働の取り組みを行っている。

東西線沿線AP協議会（八木山動物公園、八木山ベニーランド、仙台アンパンマンこどもミュージアム&モール、仙台うみの杜水族館、仙台市交通局で構成。）や地域の団体・企業と連携し、八木山フェスタなどのイベントを実施しており、宮城教育大学との協力により、実験などを交えたわかりやすい環境教育手法の研究や、動物園でのセミナー、イベントの実施に取り組んでいる。

また、SMMA（仙台・宮城ミュージアムアライアンス。科学館や博物館、文学館などで構成。）の活動のなかで、共通イベントの実施や、会報誌の発行、旅行会社への企画提案などを行っている。

今後とも、より高い効果が発揮できるよう検討を重ねながら、これらの連携、協働の取り組みを推進していく必要がある。

Ⅲ 八木山動物公園運営の基本理念及び基本方針

前述した現状と課題を踏まえ、以下のとおり、八木山動物公園運営の基本理念及び基本方針を設定する。

1 基本理念

動物を身近に感じ、楽しみ、学べる杜の都の魅力ある動物園

地下鉄東西線の開通と、ふれあいの丘の完成により、八木山動物公園は、いつでも気軽に行ける身近な動物園となり、動物とのふれあいなどを通じて、動物をより身近な命ある存在として感じられる場となった。

動物園には、「レクリエーション」に加え、「種の保存」、「環境教育」、「調査・研究」といった4つの役割があるが、動物との貴重な体験を楽しみながら、動物や環境保全について学んでもらうなど、さまざまな魅力にあふれる動物園を目指していく。

2 基本方針

方針1 人と動物が安全で快適に過ごせる動物園づくり

施設の長寿命化対策を進めるとともに、来園者と動物がともに安全で快適に過ごせるような環境整備を行う。

方針2 動物が身近に感じられる動物園づくり

動物を身近に感じてもらえるよう、動物の自然な生態や行動を見せる展示の工夫や、動物とのふれあいイベント、環境教育等の充実を図る。

方針3 多様な主体と連携した魅力ある動物園づくり

地域や、大学、市民、企業、関係施設など多様な主体と連携し、魅力ある動物園づくりを行う。

方針4 種の保存と生物多様性の保全に貢献する動物園づくり

日本動物園水族館協会や、他の動物園、大学等と連携しながら、種の保存や生物多様性の保全に貢献する各種事業を行う。

IV 基本方針に基づく施策

今後、さらに魅力ある動物園づくりを行っていくため、基本方針に基づき、下記の施策について計画的な取組みを進めていく。

方針1 人と動物が安全で快適に過ごせる動物園づくり

- 老朽化した施設や給排水設備等の現況調査を進めるとともに、安全性や来園者の利便性にも配慮した長寿命化計画等を策定し、計画的な改修を実施する。
- 長寿命化対策と併せ、展示面の充実など魅力ある動物園づくりに向けた再整備を実施する。その際、費用対効果や、寒冷地としての特性、飼育や繁殖も含めた使いやすさについても十分に考慮する。
- 感染症や災害の発生時における対応力や飼育上の事故防止対策などの強化を図る。
- グーグーテラスなどの飲食・物販施設において、魅力的なサービスの提供を行う。
- 環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングの充実を図り、動物が心身ともに健康に暮らせる施設づくりを行う。

方針2 動物が身近に感じられる動物園づくり

- 飼育・繁殖技術の向上や、計画的な新規動物の導入等により、魅力ある動物の展示を行う。
- 来園者が多い時期のイベントと、常設イベントをバランス良く組み合わせながら、年間を通して来園者が楽しめる魅力的なイベントを実施する。
- ふれあい館やビジターセンターを活用し、動物や自然に関する生涯学習教室や講習会を開催する。
- 動物を身近な存在として感じてもらうため、ふれあい体験や、学習プログラムなどを通じ、動物に対する理解や愛着を深め、命の大切さを感じてもらう。
- 動物に対する来園者の興味や関心を高めるため、イベントなどにおける動物解説の機会を増やす。
- 動物の近況やイベントなど来園者に興味を持ってもらえる情報について、マスコミや観光業界とも連携しながら、多様で効果的な広報・情報発信を行う。

方針3 多様な主体と連携した魅力ある動物園づくり

- 東西線沿線AP協議会やその他の市内観光施設、ミュージアム施設等と連携しながら、魅力的なイベントの実施や効果的なPR等を行う。
- 八木山フェスタの実施など、八木山地域が連携し、地域の活性化に向けた取組みを強化する。
- 大学と連携し、研究の成果や知見を活かした学習プログラムの作成などを行う。
- 動物ガイドなどのボランティア制度や、市民や企業に各種事業を支援してもらう動物

園サポーター制度の活用に向けた検討を行う。

- 動物の近況やイベントなど来園者に興味を持ってもらえる情報について、マスコミや観光業界とも連携しながら、多様で効果的な広報・情報発信を行う。(再掲)

方針4 種の保存と生物多様性の保全に貢献する動物園づくり

- JICA 事業を通じ、宮城教育大学と共同で、飼育展示や環境教育の技術移転を行うことにより、マダガスカル国チンバザザ動植物園が自国の生物多様性保全に貢献できるよう能力向上に向けた支援を行うとともに、生息域外保全も含めた生息環境保全の重要性について、入園者が学べる機会を提供する。
- 希少種をはじめとする展示動物を将来にわたって維持していくため、長期の繁殖展示計画を策定するとともに、大学などの研究機関とも連携し、繁殖研究に取り組む。
- 日本動物園水族館協会の指針に基づき、他の動物園との動物交換やブリーディングローンを推進するとともに、種の保存に関するグローバル化の動きに対応するため、海外の関係機関と連携を図る。
- 宮城教育大学や環境省などと連携し、外来種問題や有害鳥獣の保護管理問題などさまざまな環境問題について市民に啓発し、環境保全に向けた市民意識の醸成に取り組む。

V 経営的な視点

新規施設の導入やイベントの充実、地下鉄東西線の開通等により、入園者数は近年、増加傾向にあるが、今後、老朽化の著しい施設の長寿命化対策を進めていく必要があるなど多額の費用を要することから、持続可能で効率的な経営が求められる。

このため、以下のとおり経営的な視点を定め、今後とも来園者に親しまれる動物園として、八木山動物公園の安定的な運営に努めていく。

1 入園者数の増加

動物展示やイベントの充実、施設のリニューアルなどによる動物園の魅力アップや、効果的な情報発信、観光業界や学校、関係施設等と連携した積極的な需要の取り込みにより、年間を通じた入園者数の増加に取り組む。

2 収入の確保

ネーミングライツの継続や、新たな広告収入の検討、餌販売の拡充など収入の確保に努める。

3 費用対効果の高い施設整備

厳しい財政状況を踏まえ、入園者数の増加や来園者の利便性、安全性の向上などの観点から費用対効果を考慮しながら施設整備を進める。

VI 施設の長寿命化等計画の策定

基本理念、基本方針に基づき、施設の長寿命化等計画を策定し、八木山動物公園全体の長寿命化対策を進めるとともに、長寿命化対策と十分に整合を図りながら、動物園の魅力アップのための再整備を行う。

1 策定スケジュール

平成29～30年度

施設、設備の現況調査、長寿命化等計画検討

平成31年度

長寿命化等計画策定

平成32年度以降

順次改修工事

2 計画期間

長寿命化等計画策定後、概ね10年間